

大腸がんについて(後編)

日本消化器内視鏡学会専門医の宮池次郎先生に
「大腸がん」について伺いました。



▲副院長 宮池次郎医師

の有無を確認します。必要に応じて組織を採取し、病理検査を行います。適応と判断すれば発見時に内視鏡的に切除する場合があります。

練を要し、時間もかかりますが、完全切除が可能です。この場合は5日間ほどの入院となります。当院では検査や治療に際し鎮静剤を使用すること

今回は内視鏡検査と治療についてお話しします。便潜血陽性や、便通異常、血便などの症状があり大腸がんが疑われる

場合、まず大腸内視鏡検査をします。腸管洗浄液を服用して腸管内をきれいにした後、内視鏡を使って大腸の内부를直接観察し、ポリープやがん

とで苦痛の無いように配慮しております。進行したがんの場合、がんを含む大腸の一部を切除する手術に加え、適応があれば抗がん剤を使用した薬物療法を行います。

大腸がんはステージ

下層剥離術(ESD)という特殊な手術方法で切除します。ナイフを使って病変の周囲の粘膜を切り、粘膜下層を剥離して病変を一括で切除します。この方法は手技に熟

(がんの進行度、がんの深さ、リンパ節転移、遠隔転移で決まります)ごとに見ても、治療成績の良いがんです。早期に発見できれば、治りやすい

がんと言えらるでしょう。ぜひ検診を受けてください。検診で便潜血陽性になった場合や気になる症状があれば、大腸内視鏡検査を受けてください。

社会福祉法人



済生会今治病院

今治市喜田村7丁目1-6

<https://www.imabari.saiseikai.or.jp>

0898-47-2500

